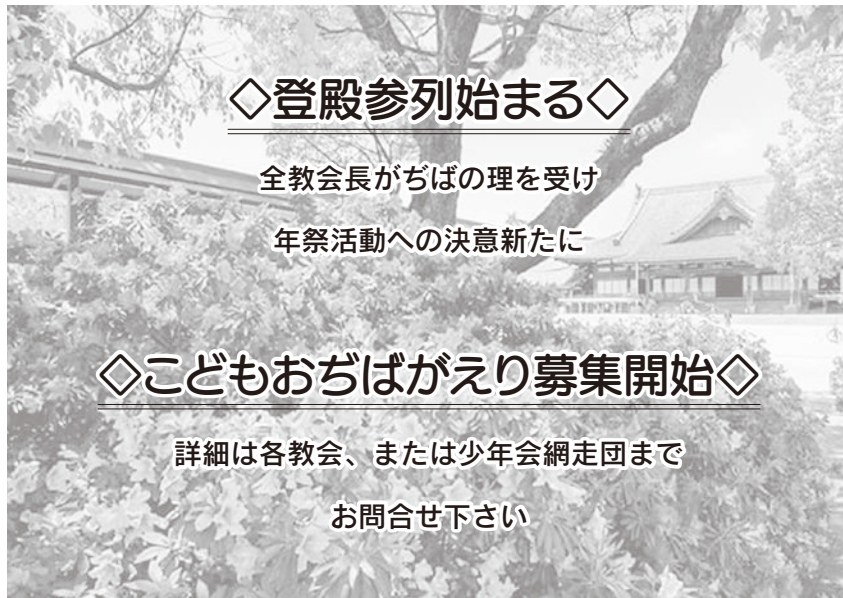


立教186年
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」
めどら



◇登殿参列始まる◇

全教会長がちばの理を受け
年祭活動への決意新たに

◇こどもおぢばがえり募集開始◇

詳細は各教会、または少年会網走団まで
お問合せ下さい



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227



大教会のHP がご覧になれます！
月報には掲載されない写真もいっぱいです！
ぜひ一度ご覧下さい♪

大教会五月月次祭

大教会5月の月次祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後、「祭典終了後ありがたくも、少年会本部より坂本三三男先生を講師として、縦の伝道講習会を開催させていただきます。御本部よりちばの理をお流しくいただきますこと、心より御礼申し上げます。又、四月二十九日には、全教一斉ひのきしんデーを各地で開催する中、陽気にひのきしんに伏

縦の伝道講習会



5月12日祭典終了後、引き続き参拝場にて「縦の伝道講習会」が少年会本部より坂本三三男先生（本部）を迎え開

せ込ませて頂きましたこと御礼申し上げます。更に四月は、初席者六名、教人一名の人の御守護を頂戴しましたこと、厚く御礼申し上げます。修養科事前研修会よろこびセミナーも三回目となる中、参加者一人ひとりがこの道の教えを心にしつかり治め、喜び一杯に国々所々へお戻り頂く御守護を頂戴し、修養科志願へとお導きくださいますことも重ねて深く御礼申し上げます。」と奏上した。

その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められ、参拝者は共に勇んでみかぐらうたを唱和した。

坂本三三男先生

催された。

坂本先生は子育てをしてく上で大切にしていることや、コロナ禍で気付いたこと、またこどもおぢばがえりの重要性などをとてもわかりやすくお話下さった。

◆コロナの3年で気付いた大切なもの◆

現在、私はありがたいこと

に、上は小学5年生から下は幼稚園まで、4人の子供をお与え頂き、子育てに字の如く「奮闘」している毎日であります。また、こうして少年会の御用を頂いてからは、縦の伝道って何かな、信仰の喜びを伝えるってどういうことかなというのを改めて学ばせて頂いているところです。特に、このコロナの期間は委員の御命を頂戴したばかりの私に「子供に信仰の喜びを伝えることの本質」をお仕込み頂きました。ちょうどコロナが流行り出した時、皆様の記憶にも残っておられるかと思うのですが、緊急事態宣言が発令され「ステイホーム」という時期がありました。おぢばの学校でもしばらく休校が続きました。子供たちが家にいる時間が増えてきますと、親としては段々色々なことが心配になってまいります。今は1人1台タブレットも支給されていますが、当時はオンライン授業もまだ始まっていなかったのです、勉強は大丈夫かな、学校は人間関係をつくる大事な場所ですから、友達と過ごす時間が減って大丈夫か

な、他にも、体育の授業や毎日の通学もなく、家にいないといけませんので、体を動かす機会が減って大丈夫かなという色々な心配が湧いてくる中で、それ以上に大変なことに気付いたので。それは「信仰の部分」でありました。情けない話ですが、私は今まで子供がおぢばの学校や少年会の活動に行っていれば信仰的なことは自然と身に付けてくれるだろうという思いが心のどこかにあつて、それに頼りきり、任せきりになってしま

「縦の伝道の主軸は親」といわれる、肝心の家庭で信仰を伝えるということが疎かになっていったのです。おさしづに「もう、道というは小さい時から心写さにやならん(明治33年11月16日)」というお言葉がございますが、自分は毎日の生活の中で、子供たちにどんなことを写せていたのだろうか。そしてどんなことが知らず知らずの間に写っていたのだろうか。振り返ってみますと、子供たちから「お父さんはどんなお仕事をしてるの?」と聞かれた時に、「お父さんは親神様・教

祖のありがたい御用をして

るんだよ」とは言いながら、疲れて家に帰っては子供に素っ気ない冷たい態度をとったり、色々な悩みや心配事から、全く勇めていない、いざみ切った姿を見せたこともあります。「今日こんなことがあつてさあ」「あの人にこんなこと言われてさあ」と何気なく妻にもらした愚痴や不満を子供に聞かれてしまったこともあります。情けないことですが、ある時、子供たちから「もうお仕事行くのやめたら?」と言われたこともありました。今思えば「そらそうやろ」と思うのですが、やはり言われた時はショックでした。自分では一生懸命御用をやっていたのですが、心から喜んでは出来ていなかったんです。これでは何も伝わらないどころか「そんなにしんどいことなら、自分はお道を通りたくない」と思われても仕方がないことでもあります。これは口にするのは簡単ですが深刻な問題であります。

今年の年頭幹部会では真柱様からお言葉を頂戴し、中山治信相談役が代読下さいました。ありましよう。また、そうした姿は、時には周りに対するにいがけともなるのであります。」とお話し下さいました。次に「一手一つの和」ということについて真柱様は「私たちが目指している陽気ぐらし世界への立て替えは、限られた人数で成し遂げられることではなく、何世代にもわたる大勢の人の協力が必要であることは言うまでもありません。どの土地に暮らす人も、また、どんな仕事に就いている人も、みんなが親神様の思召一つに心を寄せ合い、それぞれが持ち場持ち場の勤めを果たしていく時、おのずと一手一つとなり、そこに大きな力が生まれ、一人では味わうことのできない喜びを感じることができるのであります」と、お話し下さいました。

のだろうかなどと考えるうちに、少しづつ神一条の精神というものが身についてくると思うのであります。私たちが神一条の心を持って暮らすことで、陽気ぐらしの基盤が固まっていくと思うのであります」とお話し下さいました。親神様は私たちに色々な形でメッセージを下します。それは病気や、身の周りに起こる色々な問題に限らず「このタイミングでこういう事が起こった」とか「あの人からこういう言葉を掛けられた」など、何気なく過ぎていくと見過ごしてしまいうようなことの中にもメッセージがあるわけでありますが、それにどれだけ気付くことができるかということが大切なんだと思います。

次に「ひのきしんの態度」についてですが「ひのきしんは、一口で言えば、日々頂く親神様のご守護に対する私たちの感謝の心を現す行いでもあります。親神様への感謝の心で、どんなことにも喜びをもって、明るく勇んで取り掛かるその姿は、見ていると清々しく気持ちのよいもので

た。お言葉の中で真柱様は、

「家庭をはじめ、自分たちの関わる社会の中で、子供たちは大人の姿をよく見ているように思えます。ありがたう、ありがたいなどの感謝の言葉からわずかな不足話まで、大人の何気ない一言でも、子供の心には、大なり小なり影響を与えます。また、大人が教えたこととその大人の行いが合わなければ、子供は疑問を感じます。みなさんもよくお分かりだと思いますが、このことを、私たちはしっかりと自覚して子供たちと向き合い、まず、一人ひとりが自らの成人を心がけ、心澄まして、育成に取り組むことが大切であります。」とお述べ下さいました。

やはり一番身近な存在である親から、どんな時でも嬉しいなあ。ありがたいなあ、喜びの心で通らせてもらって、子供たちにも、そんなに嬉しいことなら、自分もお道を通りたいと思ってもらえるように、毎日の生活の中で自分自身が喜びを感じ、子供たちに写していかなければならない。そんな縦の伝道の根本

の部分で、「ステイホーム」

を通して気付かせてもらいました。きっと皆様方もこのコロナ中に大切なことを気付かれたという方は多いのではないかと思います。昨年ご発布頂いた諭達の冒頭で、真柱様は「教祖140年祭を迎えるにあたり、思うところを述べて、全教の心を一つにしたい」と述べられました。全教が諭達に示されたお心一つに進ませて頂く。そうした上から、少年会では今年の活動方針として「教祖のひなごたを目標(めど)に教えを實踐し、子供に信仰のありがたさを伝えよう」を掲げました。

◆ようぼくの三信条◆

二代真柱様は「ようぼくの三信条」「神一条の精神」「ひのきしんの態度」「一手一つの和」の3つを示されました。昭和42年に開催された第1回団長講習会の中で、二代真柱様は「子供の感化ということ、これは教えるというよりも、感化を示すということの第一の大切な点は、自ら身を以て示すということにあります。言い換えると、皆さん方自身が、ひながたの道を歩みなが

ら、かく、ついていらっしや

いとすることが一つの問題であります。(中略) ひながたを歩むのにもいろいろあります。これは常に申すことでありますが、私は、3つの信条を私達の座右に掲げたのであります。一つは神一条の精神、そしてひのきしんの態度、それから一手一つの和であります。やはり、このことをしっかりと皆さん方の間に於いて実行して頂いて、これによって子供を導いて頂く」と、育成にあたる方々に対して、子供たちに信仰の喜びを伝えるには、まず自分たちが教祖のひながたを辿る努力をすることが大切だとお話し下さいました。

まず「神一条の精神」ということについて真柱様は「何かをするにしても、何を考えるにしても、教えを中心とした心の持ち方で考えていく習慣を身に付けるということでありましよう。教理の難しいところは分からなくても、日頃の暮らしの中で、折にふれ事に当たって、親神様の思いはどこにあるのだろうか、教祖は何を教えて下さっている

話しをする機会というのは意外に少ないように感じます。年祭活動の1年目である本年は、子供たちにもより教祖を身近に感じて、親しみをもってもらえるように「教祖についてお話をする」ということを意識して取り組ませて頂いております。色々考えた結果「普段の生活の中で教祖の心を伝えよう」と決めました。まず我が家では、子供たちもみんな物心がついてきましたので、年祭に向けた坂本家の目標を立てました。それは「教祖にお喜び頂ける心で、毎日誰かのしあわせ・たすかりをお願いしよう」というもので、A3サイズの紙にピッキー・リボンのイラストを入れて印刷して、教祖は人に喜んでもらうつもり、たすかってもらえようような心の使い方を一番喜んでくれるよ」と話をしたり、普段の子供たちとの会話の中で、例えば、子供がお菓子をお分けしてくれたりした時には「教祖も周りの人が喜ぶようにそうやって分けておられたんだよ」とか、ご飯の好き嫌いをした時には「教祖は何でもおいしいと言って食べてあ

◆活動方針◆ 少年会の活動方針は、活動を推し進めるための重点項目として、1つ目に「子供に教祖のお話をしよう」を掲げております。普段、子供たちと接する中で、親神様のお働きやひのきしんについて話す機会はありましても、教祖のお

げてね、と教えてくれたよ」という風に、会話の中で「教祖は」という言葉を入れるように心掛けています。子供ながらに教祖を身近に感じ、教祖に喜んで頂けるような心遣いや行いができる素地を作ることが、年祭活動においても大切な事でありまして、ぜひ教会や家庭においても取り組ませて頂きたいと思

次に、重点項目の2つ目には「教会こども会を実施しよう」を、3つ目には「地域で少年会ひのきしんを実施しよう」を掲げております。 コロナの影響が続いてきた中、できる範囲で、細々とでも試行錯誤しながら少年会活動を続けてこられたお教会や地域はたくさんございます。昨年「少年ひのきしん隊」の支部結成を打ち出して50年を迎えましたが、同じ地域に住む仲間と繋がりを持って、一緒にひのきしんに励んだり、楽しみながら信仰を身に付けることができる教区や支部の活動へと、わかぎ層である中学生をはじめ、それに続く子供たちを参加させて頂きたい

◆夏の取り組み◆ 少年会では、教会や地域でも取り組んで頂きやすい活動として、昨年引き続き「夏休みこどもひのきしん」を提唱いたしました。この取り組みは、これまで長年に亘って行われてきた「こどもおぢばがえり」がコロナの影響で中止となつてから「夏休み」という子供が色々な経験を通して一段と成長できる貴重な機会に、人を集めた活動が難しい中でもできる丹精の取り組みとして、提唱したものであります。親神様から身体をお借りしている「かしもの・かりもの」や「十全の御守護」の教えであったり、その喜びからくる「ひのきしん」は信仰の最も大切な部分でありますので、コロナが明けたからもう終わりというのではなく、引き続き、ご家庭や教会、地域など身近なところからひのきしんに励ませて頂きたいと思

また、4年ぶりの開催となるこどもおぢばがえりまで、あと2ヶ月となりました。今年のこともおぢばがえりについては、4月に要項も発表さ



教祖140年祭へ向かう三年千日の年祭活動が進められるなか、全教会長が教会の心定めとともに、日ごろの活動を親神様・教祖にご報告申し上げ、さらなる決意を固め直すうえから、行われるもの。

網走大教会も4回に分けて登殿させて頂き、5月26日には、鉦厚・常呂・御料・誠陽・東網・オホーツク・網徳・網盛・網昇の各分教会長が結果内で参拝させて頂いた。

「登殿参列」始まる

コロナ禍ということもあり、新体制になったものの、各地区ようき会活動も停滞している状態が3年以上続いております。新型コロナウイルス感染症も2類から5類感染症に移行され、行事や団参など行いやすいようになりました。

教祖140年祭の三年千日も始まり、いよいよ旬がやってきました。そこで今年に入り関東地区ようき会では4月の教祖誕生祭に団参を行い、最近では毎月役員会を開催し動き出ししています。他の各地区ようき会でも役員を中心に一歩前に動き出して頂きたいと思っております。

網走ようき会としては、まず地域の仲間が集まり親交を深め、教祖に喜んで頂けるような動きをして頂き、そして教祖140年祭を迎えたときに、教祖にお喜び頂けたと思える動きを皆様と心一つに行いたいと思います。今後とも網走ようき会活動の活性化にご協力頂きますようよろしくお願ひ致します。

網走ようき会会長 瀨川定自

網走ようき会

修養科事前研修会

よろこびセミナーを受講して

▼誠 網 本間亜由美 (修養科未定)

天理教の教えをととも分かりやすく、先生方の実体験も交えながらお話し下さったので、とても感動しました。

改めて天理教の教えは素晴らしいなと感じたと同時に、天理教の信仰に導いて下さったことがありがたいなと思いました。

最近、なかなかおつとめもできていかなかったり、教会へ足を運ぶ回数も減っていました。研修会に参加させて頂いて、周りの方々が自分の幸せを願って下さっていたこと、親神様、教祖にたくさん感謝させて頂いていたことを思い出させて頂きました。

この感謝の気持ちを札幌に戻ってから、ひのきしんの精神で行動させて頂き、心の掃除をしながら、周りで、たすかりを求めている方に伝えたいと思います。



▼誠 網 竹田祐也 (修養科未定)

分かりやすい研修会で本当に良かったです。陽気ぐらしをすることで良い方向に向かうイメージができました。

受ける前は、おつとめ、ひのきしんが分かりませんでした。必要なたとえとありました。目標を持って陽気ぐらしをすることの大事さが分かりました。



▼誠 網 森大地 (5月より修養中)

いろいろな方々が親神様と教祖の歴史や人をたすけたいという思いを胸に秘めているんだなと実感しました。改めてご用意して頂いた大教会の皆様ありがとうございます。

▼誠 網 今泉康太 (修養科未定)

こんな充実した時間を過ごせたこと、本当に感謝です。気遣い、心遣いに満ち溢れた3日間でした。

今まで何度も聞いていたことが、やっと理解できたように思います。ありがとうございます。

せて頂きましたが、3年間のプランクや他にも様々な要因もあり、今までのような規模での開催ではなく、一から作り上げていく「こどもおぢばがえり」になります。企画や準備を進める中で「規模の小さいこどもおぢばがえりはおぢばがえりか」「規模が小さくなつて子供たちは喜んでくれるのか」という声を頂いたりもしましたが、私は「こどもおぢばがえりの喜び」というものは、決して行事の派手さや規模の大きさに左右されるものではないと思っております。こどもおぢばがえりの意義とありますが、喜びはどういうところにあるか。第一には、私たち人間のふるさと「おぢば」で、親神様・教祖がお待ち下さっているというところであります。逸話篇を読ませて頂いておりますと、教祖はおぢばに帰ってきた方々に対して「よう帰ってきたなあ」「待っていた、待っていた」と温かく声を掛けられた、というお話がたくさんございます。それは現身をお隠しになられた今でも、変わることなく、お

ぢばに帰ってきたみんなに当時に変わらぬお声を掛けて下さっているのではありません。そのお声、その空気、その温かさに触れさせて頂くということが一つの大きな喜びであります。

またもう一つには「この家へやって来る者に、喜ばさずには一人もかえされん」との教祖のお心を芯として引率や受け入れに当たる方々の姿に触れる、ということであります。「お茶どうぞ！」と暑さの中、「人のため つくすよろこび ひろげよう」を合言葉に、笑顔で声をかけてくれる少年ひのきしん隊のお兄さんお姉さんもそうであります。各会場や詰所などで受け入れて下さる方々や、引率して下さる方々もそうであります。おぢばがえりに携わる全ての人たちの姿が、子供たちにとっては「お兄さん・お姉さんへの憧れ」「育成会員への憧れ」「おぢばへの憧れ」「親神様・教祖への憧れ」に繋がっていくのだと思います。そして、そうした憧れは次の世代、次の世代へと続いていくと信じています。

最後になりますが、このコロナの3年間は形の上でも心のすだこは否めません。おさしづに、

「大きい心を持って通れば大きい心成る、小さい心を持って通れば小そうなる。(親が怒って子供はどうして育つ) 皆、をやる代りをするのや。満足さして連れて通るが親の役や。」(明治21年7月7日)

「満足は心の理、優しき者は日々(にちにち) 満足。満足は小さいものでも、世上大道理に成る。これより大道理は無い。満足広く通り、不足はあちら縮める、こちら狭(せ)ばむ。時によれば取れて退(しりぞ)く。満足というものは、あちらでも喜ぶ、こちらでも喜ぶ。喜ぶ理は天の理に適(かな)う。適(かな)うから盛ん。」(明治33年7月14日)

とあります。教祖年祭に向かって大きな一歩を踏み出させて頂いたこの大切な時を、私たち育成者が喜びの心で通らせ頂いて、もう一度大きな心を持って、将来を楽しみに子供たちを育てさせて頂きたいと思っております。

さあみんなでおぢばへかえろう！

こどもおぢばがえり

2023年7月27日-8月6日

楽しさいっぱい！笑顔あふれる

こどもおぢばがえりにしよう！

奈良県天理市 天理教教会本部

網盛分教会二代会長 大山フテヨさん

大山フテヨさん

網盛分教会(旭川市錦町) 二代会長 大山フテヨさんが、代会長に就任した。

5月20日出直された。95才 大山さんは、昭和2年8月16日美幌町で生まれた。昭和17年3月、美幌国民学校高等科を卒業。昭和26年大山盛雄さんと結婚され、二男一女を授かった。教祖90年祭の折、初めておぢばがえりをし、別席を運び、昭和51年おさづけの理を拝戴した。その後、昭和57年に網千代分教会後任の会長の話を受け、昭和57年11月、移転、改称、任命の理のお許しを戴き、網盛分教会二代会長に就任した。

葬儀は5月22日みたまうつろい、翌5月23日告別式が、旭川ベルコ川端シティホール斎場で、世話人・藤山重善斎主のもと執行された。

